

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「テンプレトン世界債券ファンド」は2021年12月20日に決算（限定為替ヘッジコース／為替ヘッジなしコースは第22期、毎月分配型・為替ヘッジなしコースは第131期）を行いました。当ファンドは主として世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等に実質的な投資を行い、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社（金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第417号）はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。

〈テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース〉

| 第22期末(2021年12月20日) | |
|--------------------|----------|
| 基準価額 | 9,330円 |
| 純資産総額 | 1,106百万円 |
| 第22期 | |
| 騰落率 | △ 3.4% |
| 分配金(税込み)合計 | 10円 |

〈テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース〉

| 第22期末(2021年12月20日) | |
|--------------------|----------|
| 基準価額 | 14,006円 |
| 純資産総額 | 3,117百万円 |
| 第22期 | |
| 騰落率 | △ 0.0% |
| 分配金(税込み)合計 | 10円 |

〈テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース〉

| 第131期末(2021年12月20日) | |
|---------------------|---------|
| 基準価額 | 10,275円 |
| 純資産総額 | 140百万円 |
| 第126期～第131期 | |
| 騰落率 | △ 0.0% |
| 分配金(税込み)合計 | 150円 |

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しております。

テンプレトン世界債券ファンド

限定為替ヘッジコース
為替ヘッジなしコース
毎月分配型・為替ヘッジなしコース
(愛称:地球号)

追加型投信／内外／債券

交付運用報告書

限定為替ヘッジコース／為替ヘッジなしコース
第22期(決算日2021年12月20日)

作成対象期間：2021年6月22日～2021年12月20日

毎月分配型・為替ヘッジなしコース

第126期(決算日2021年7月20日)

第127期(決算日2021年8月20日)

第128期(決算日2021年9月21日)

第129期(決算日2021年10月20日)

第130期(決算日2021年11月22日)

第131期(決算日2021年12月20日)

作成対象期間：2021年6月22日～2021年12月20日



FRANKLIN
TEMPLETON

フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

〈お問い合わせ先〉

電話番号：03-5219-5947

(営業日の9:00～17:00)

ホームページ：<https://www.franklintempleton.co.jp>

お客様の口座内容などに関するお問い合わせは、お申込みされた販売会社までお願い申し上げます。

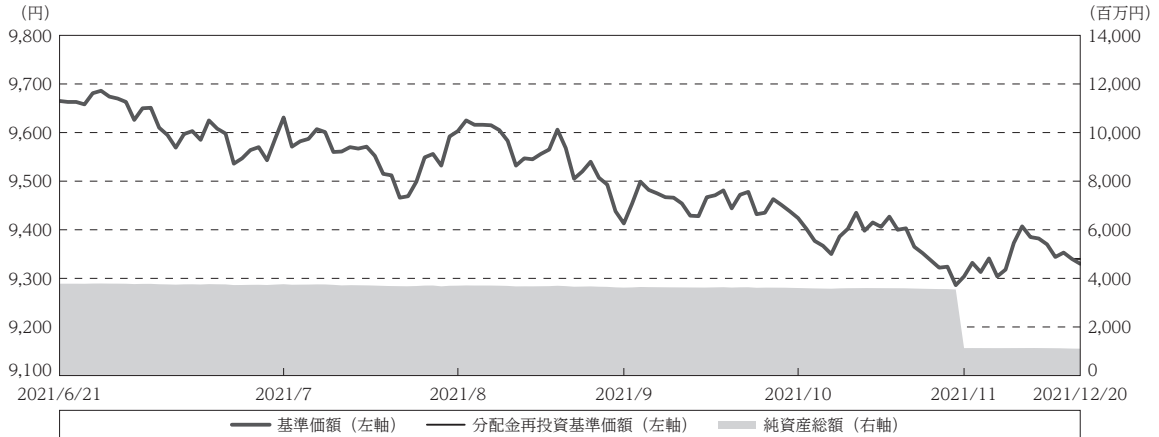
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。上記〈お問い合わせ先〉ホームページの「ファンド一覧」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、当ファンドの詳細ページにおいて「資料・レポート」の中から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付を請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

〈テンプレートン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース〉

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2021年6月22日～2021年12月20日)



期首：9,665円

期末：9,330円 (既払分配金(税込み):10円)

騰落率：△ 3.4% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2021年6月21日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY-H1」(以下、JPY限定為替ヘッジ・クラスといいます。)の分配金再投資基準価額が前期末と比べ下落したことから、当ファンドの分配金再投資基準価額は下落しました。詳しくは後掲の「**投資環境**」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動
- ・米ドル売り円買いの為替予約取引等による為替ヘッジコスト

1 万口当たりの費用明細

(2021年6月22日～2021年12月20日)

| 項 目 | 当 期 | | 項 目 の 概 要 |
|----------------------|---------|------------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信 託 報 酬 | 51 円 | 0.535 % | (a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率 |
| (投 信 会 社) | (10) | (0.110) | ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価 |
| (販 売 会 社) | (39) | (0.411) | 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 |
| (受 託 会 社) | (1) | (0.014) | ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価 |
| (b) そ の 他 費 用 | 0 | 0.005 | (b) その他費用 = $\frac{\text{[期中のその他費用]}}{\text{[期中の平均受益権口数]}}$ |
| (監 査 費 用) | (0) | (0.005) | その他費用 ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| 合 計 | 51 | 0.540 | |
| 期中の平均基準価額は、9,507円です。 | | | |

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

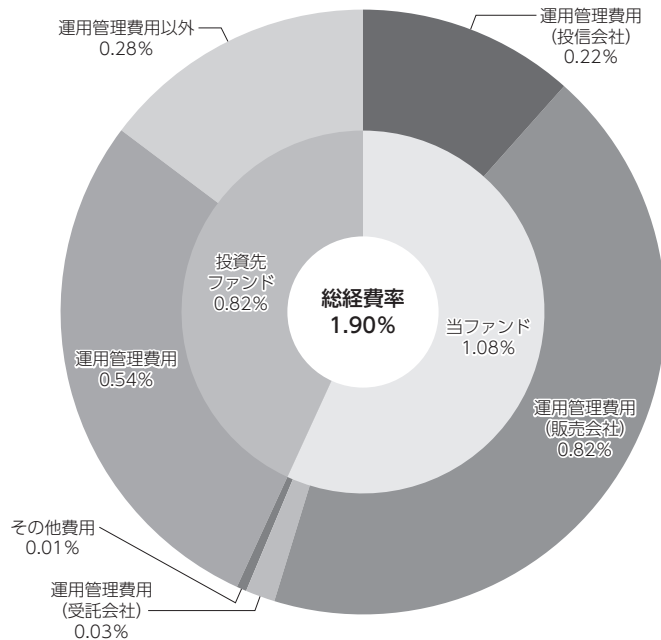
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.90%です。



(単位:%)

| | |
|----------------------|------|
| 総経費率(①+②+③) | 1.90 |
| ①当ファンドの費用の比率 | 1.08 |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | 0.54 |
| ③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率 | 0.28 |

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

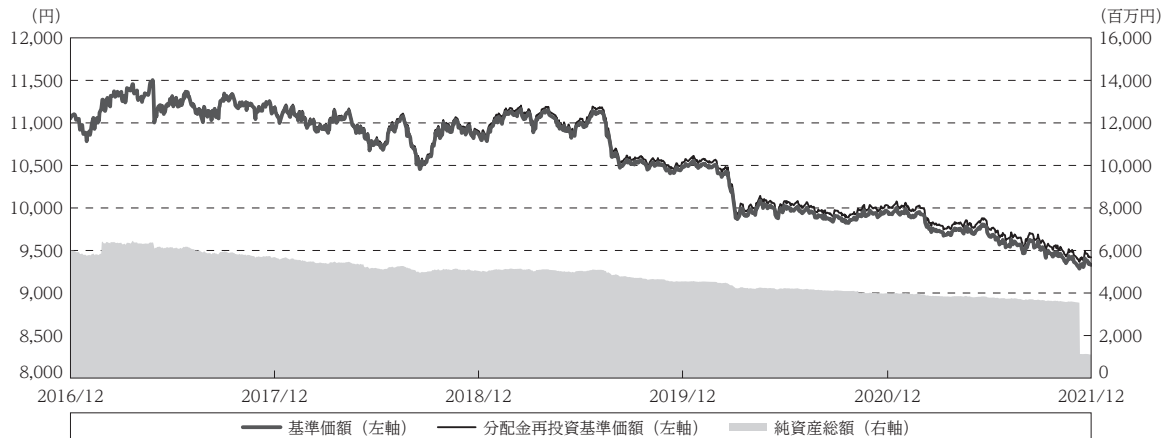
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2016年12月20日～2021年12月20日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2016年12月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

| | 2016年12月20日 決算日 | 2017年12月20日 決算日 | 2018年12月20日 決算日 | 2019年12月20日 決算日 | 2020年12月21日 決算日 | 2021年12月20日 決算日 |
|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 基準価額 (円) | 11,053 | 11,164 | 10,866 | 10,478 | 9,955 | 9,330 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | 1.2 | △ 2.5 | △ 3.4 | △ 4.8 | △ 6.1 |
| 純資産総額 (百万円) | 5,999 | 5,684 | 5,039 | 4,543 | 3,981 | 1,106 |

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ-テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-HI」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

(2021年6月22日～2021年12月20日)

(債券市場)

当期の米国債券市場は、短中期債利回りが上昇（価格は下落）する一方、長期債利回りは若干低下（価格は上昇）しました。期の前半は、米連邦準備制度理事会（FRB）による緩和的な金融政策の長期化が意識されたことなどから、利回りは低下しました。その後も、FRBがテーパリング（量的緩和の縮小）を急ぐことはないとの見方が広がったことや、新型コロナウイルスで感染力の高いデルタ株の広がりが懸念され、投資家のリスク回避が意識されたことなどから、長期債を中心に利回りの低下が進みました。期の半ばは、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、経済活動の正常化が進むとの見方が広がったことなどから、利回りは上昇しました。米連邦公開市場委員会（FOMC）でテーパリングの年内開始と利上げ開始時期の前倒しが示唆されたことなども利回りの上昇に寄与しました。期の後半は、FOMCでテーパリングの開始が決定されましたが、FRB議長が早期の利上げに慎重な姿勢を示したことや、新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）が確認されたことなどから、利回りは低下しました。しかしその後、オミクロン株に対する過度な警戒感の後退や、FOMCが市場の予想通りながらもタカ派的姿勢を示したことなどから、利回りは下支えされました。

当期の欧州債券市場は、利回りが低下しました。期の前半は、欧州中央銀行（ECB）による金融緩和の長期化観測を背景に、利回りは低下しました。米国で緩和的な金融政策が長期化すると観測が広がり、米国国債利回りが低下したことも、ドイツの国債利回りの低下要因となりました。新型コロナウイルスのデルタ株の感染が拡大する中、欧州景気の先行き不透明感が意識されたことも、利回りの低下につながりました。期の半ばは、ECBがテーパリング開始を決定したことや原油価格の上昇によりインフレ加速への警戒感が高まったことから、利回りは上昇しました。しかしその後は、ECB総裁が早期の利上げ観測をけん制する発言を行ったことやオミクロン株が確認されたことなどから、利回りは低下しました。

新興国債券の利回りは、インフレ懸念などを背景に概ね上昇しました。

(外国為替市場)

当期の米ドル・円相場は、米ドル高・円安となりました。期の前半は、概ね一進一退の展開となりました。FRBによる早期のテーパリング開始に対する警戒感から米ドル買い・円売りが優勢となる場面が見られた一方、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大を受けて米国景気への影響が懸念されたことは、米ドルの上値を抑える要因となりました。

期の半ばは、米国国債利回りが上昇し、日米金利差が拡大したことから、米ドル買い・円売りが強まりました。その後、米国国債利回りの上昇が一服すると、米ドルは対円で伸び悩みとなりましたが、引き続き底堅い動きとなりました。期の後半は、オミクロン株の確認により、投資家のリスク回避姿勢から円買いが進む場面も見られましたが、過度な警戒感が和らいだことやFRBのタカ派的な金融政策などを背景に米ドルは下支えされました。

当期のユーロ・円相場は、ユーロ安・円高となりました。期の前半は、ECBによる金融緩和の長期化観測が強まったことや、欧州で新型コロナウイルスの感染が再拡大し、欧州経済への影響が懸念されたことなどから、ユーロは対円で下落しました。期の半ばは、方向感の定まらない展開となりました。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大による欧州景気の先行き不透明感が意識されたことなどは、ユーロ売り・円買いを促す要因となりました。一方、ECBがテーパリング開始を決定したことなどは、

ユーロ買い・円売り要因となりました。期の後半は、ドイツの国債利回りが上昇したことなどから、ユーロ買い・円売りが強まりました。しかしその後、ドイツの国債利回りの上昇が一服する中、オミクロン株の確認などによりユーロ売り・円買いが優勢となりました。

新興国通貨の動きは対円でまちまちとなりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2021年6月22日～2021年12月20日)

(テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、韓国、インドネシア、ノルウェー、ブラジル、スウェーデンなどへ投資しました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、韓国ウォン、米ドル、中国元を買い建てとする一方で、ユーロなどを売り建てしました。

<信用格付別配分>

主な配分については、投資適格債を中心に、非投資適格債も一部組み入れました。

なお、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス」において、ポートフォリオの通貨配分にかかわらず、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り・円買いの為替予約取引等により、対円で為替ヘッジを行いました。

(2021年11月末時点)

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定))

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2021年6月22日～2021年12月20日)

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2021年6月22日～2021年12月20日)

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

| 項目 | 第22期 |
|--------------------|----------------------------|
| | 2021年6月22日～ 2021年12月20日 |
| 当期分配金 (対基準価額比率) | 10 0.107% |
| 当期の収益 | 10 |
| 当期の収益以外 | — |
| 翌期繰越分配対象額 | 4,490 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率は異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(テンプレートン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース)

「テンプレートン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス」および「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」へ投資を行います。「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド：テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス)

○市場見通し (2021年11月末時点)

新型コロナウイルス・オミクロン株に伴うリスクについては注意が必要ですが、一部の国における新型コロナウイルスワクチンの接種率は高く、コロナとの共生を目指す方針への転換が始まっており、2021年から2022年にかけて世界経済の回復は続くと思われています。現状、オミクロン株が与える影響やワクチンの有効性については不透明な状況です。オミクロン株の出現が、再び行動制限や経済への打撃につながるリスクはありますが、景気回復の流れは継続すると考えています。世界経済は、2021年前半にピークを付けた後、足元数か月において減速の兆候が見られますが、引き続き回復力があると考えています。

市場環境は、リスク資産へのシフトを進める状況にあると考えていますが、国ごとの経済状況や政策対応の違いを十分に精査して選別的にソブリン債に投資することが重要であると考えます。インフレ、

政策金利動向、新型コロナウイルスの状況に関連する固有のリスクを引き続き注視しています。

需給のミスマッチなどの要因により、2022年第1四半期にかけて多くの国でインフレ率は高止まりすると予想しています。米国では、ごく一部の業種が米国の物価に大きく影響を及ぼしています。運用チームでは、これらの要因の正常化に伴いインフレ率は低下すると予想しています。しかし、過度の金融緩和、巨額の財政支出がインフレリスクにつながる可能性があります。また、今後予想される家賃の上昇や労働市場のミスマッチが与える影響など、これら様々な要因が長期的なインフレ期待の上昇につながって行くのか否かについても注視が必要です。

○運用方針

全体として、ポートフォリオのデュレーションを短めに維持します。引き続き主要先進国以外で強固なファンダメンタルズを有し、魅力的なリスク調整後の利回りを有する国の現地通貨建てのソブリン債を選別的に保有しています。一部の新興国のソブリン債利回りは低利回りもしくはマイナス利回りの先進国ソブリン債の利回り水準を大きく上回っています。また、ビジネス活動が活発で、経常収支が黒字であり、健全な財政政策および高い経済成長が期待できる国（特にアジア諸国）の通貨にも注目しています。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

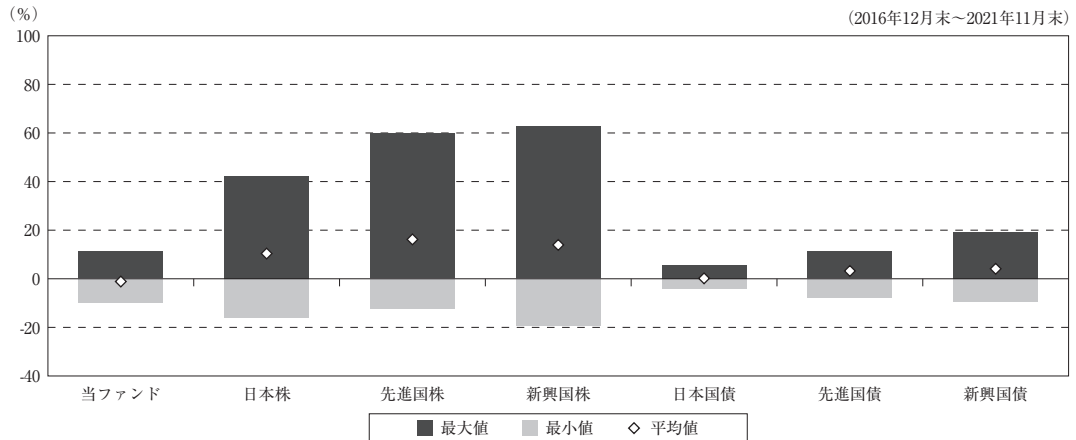
引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当ファンドの概要

| | | |
|--------|--|--|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／債券 | |
| 信託期間 | 無期限 | |
| 運用方針 | 投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。 | |
| 主要投資対象 | 当ファンド | ①フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY-H1 ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券 |
| | フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-H1 | 世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等 |
| | 日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定） | 日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じてわが国の公社債、金融商品に投資 |
| 運用方法 | 主として、外国投資証券である「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY-H1）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。 | |
| 分配方針 | 毎決算時（毎年6月および12月の20日（休業日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託者が毎計算期末の基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 | |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|-------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | 11.5 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 5.4 | 11.4 | 19.3 |
| 最小値 | △ 9.9 | △ 16.0 | △ 12.4 | △ 19.4 | △ 4.0 | △ 7.9 | △ 9.4 |
| 平均値 | △ 1.1 | 10.4 | 16.2 | 13.9 | 0.2 | 3.2 | 4.1 |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年12月から2021年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(※) 各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

〈テンプレートン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース〉

組入資産の内容

(2021年12月20日現在)

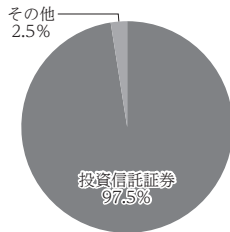
○組入上位ファンド

| 銘 | 柄 | 名 | 第22期末 |
|---|-------|---|-------|
| | | | % |
| フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ-テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-HI | | | 97.2 |
| 日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定) | | | 0.3 |
| | 組入銘柄数 | | 2銘柄 |

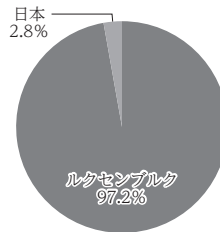
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

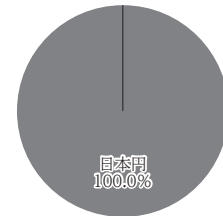
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

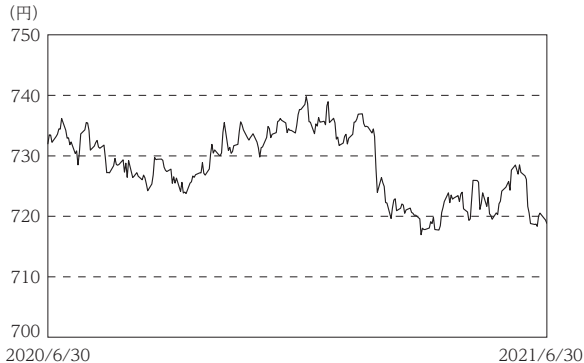
| 項目 | 第22期末 |
|------------|----------------|
| | 2021年12月20日 |
| 純資産総額 | 1,106,365,170円 |
| 受益権総口数 | 1,185,843,059口 |
| 1万口当たり基準価額 | 9,330円 |

(注) 期中における追加設定元本額は18,230,539円、同解約元本額は2,743,425,061円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ・テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド
(2020年7月1日～2021年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPY-H1の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2020年7月1日～2021年6月30日)

| 項 目 | 比 率 |
|---------------------|-------|
| 運用報酬 | 0.55% |
| 管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等 | 0.28% |
| 合計 | 0.83% |

(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPY-H1の数値です。
(注) 1万円当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位 10 銘柄

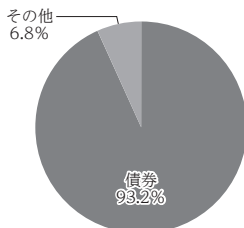
(2021年6月30日現在)

| 銘 柄 名 | 通 貨 | 比 率 |
|---|------------|-------|
| Korea Monetary Stabilization Bond 0.905% 04/02/2023 | 韓国ウォン | 6.58% |
| Mexican Bonos 6.5% 06/09/2022 | メキシコペソ | 5.94% |
| Japan Treasury Bill 0% 12/20/2021 | 円 | 5.01% |
| Sweden Treasury Bill, Reg. S, 144A 0% 09/15/2021 | スウェーデンクローナ | 4.89% |
| Norway Government Bond, Reg. S, 144A 2% 05/24/2023 | ノルウェークローネ | 4.72% |
| Korea Treasury Bond 0.875% 12/10/2023 | 韓国ウォン | 4.11% |
| Norway Government Bond, Reg. S, 144A 3% 03/14/2024 | ノルウェークローネ | 4.08% |
| Indonesia Government Bond 9.5% 07/15/2023 | インドネシアルピア | 2.86% |
| Korea Treasury Bond 1.25% 12/10/2022 | 韓国ウォン | 2.54% |
| US Treasury Bill 0% 08/03/2021 | 米ドル | 2.37% |
| 組入銘柄数 | | 84銘柄 |

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

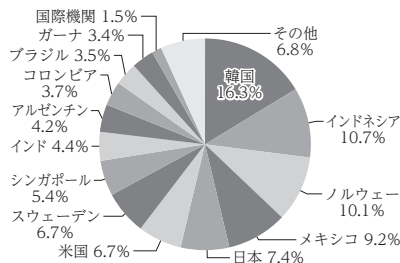
○資産別配分



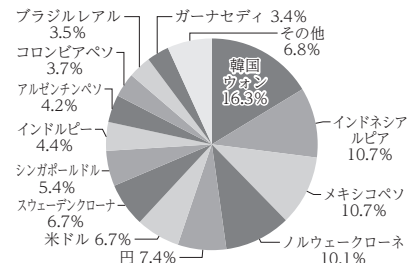
(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2021年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

○国別配分

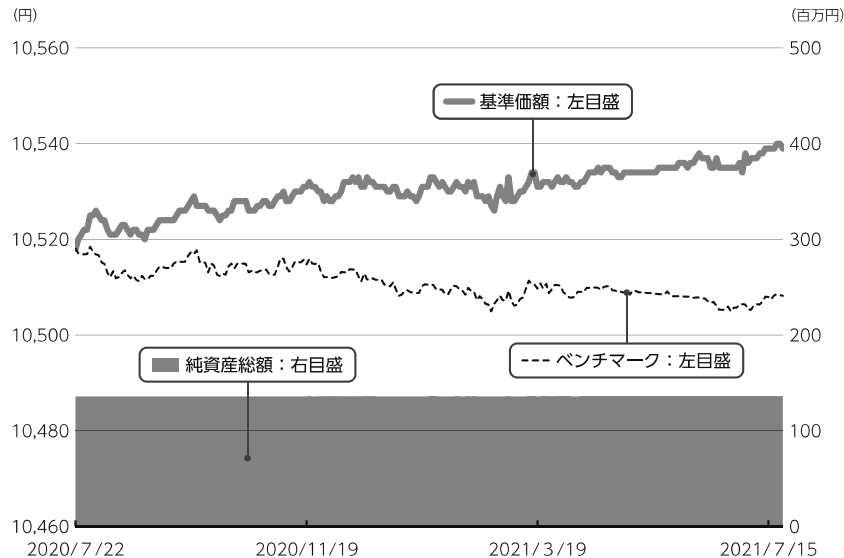


○通貨別配分



日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2020年7月23日～2021年7月26日）

基準価額等の推移



2020年7月23日～2021年7月26日

1万口当たりの費用明細

| 項目 | 当期 | | 項目の概要 |
|-----------|--------|---------|---|
| | 金額 (円) | 比率 (%) | |
| (a) 信託報酬 | 15 | 0.144 | (a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数) |
| （投信会社） | (12) | (0.111) | ファンドの選別・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目録見書等の作成等の対価 |
| （販売会社） | (1) | (0.011) | 交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 |
| （受託会社） | (2) | (0.022) | ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価 |
| (b) その他費用 | 0 | 0.003 | (b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数 |
| （監査費用） | (0) | (0.003) | ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用 |
| 合計 | 15 | 0.147 | |

期中の平均基準価額は、10,530円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

組入上位10銘柄

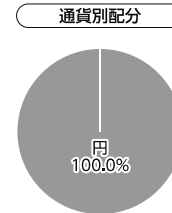
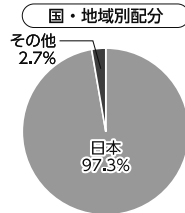
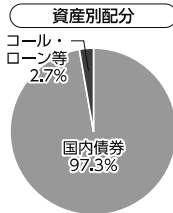
(組入銘柄数：17銘柄)

| | 銘柄 | 種類 | 国・地域 | 業種／種別 | 比率(%) |
|----|---------------------------|----|------|-------|-------|
| 1 | 第19回みずほ銀行(劣後特約付) | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 2 | 第14回セブン&アイ・ホールディングス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 3 | 第15回Zホールディングス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 4 | 第14回アサヒグループホールディングス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 5 | 第67回神戸製鋼所 | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 6 | 第75回アコム | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 7 | 第1回クレディ・アグリコル・エス・エー(2017) | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 8 | 第50回日本電気 | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 9 | 第5回イオンフィナンシャルサービス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 10 | 第1回明治安田生命2019基金 | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

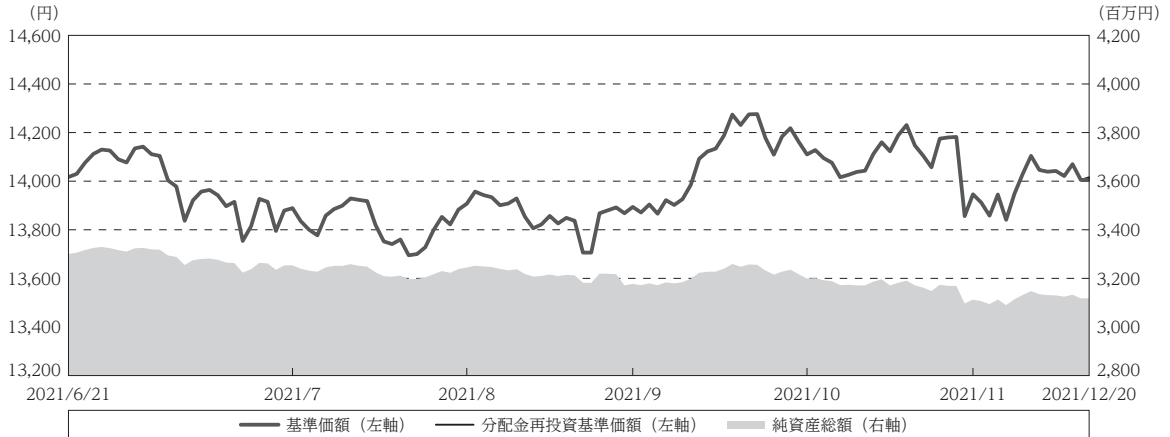
※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

〈テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース〉

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2021年6月22日～2021年12月20日)



期首：14,017円

期末：14,006円 (既払分配金(税込み):10円)

騰落率：△ 0.0% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2021年6月21日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY」(以下、JPYクラスといいます。)の分配金再投資基準価額がほぼ横ばいで推移したことから、当ファンドの分配金再投資基準価額もほぼ横ばいで推移しました。詳しくは後掲の「**投資環境**」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動

1 万口当たりの費用明細

(2021年6月22日～2021年12月20日)

| 項 目 | 当 期 | | 項 目 の 概 要 |
|-----------------------|---------|------------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信 託 報 酬 | 75 円 | 0.535 % | (a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率 |
| (投 信 会 社) | (15) | (0.110) | ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価 |
| (販 売 会 社) | (57) | (0.411) | 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 |
| (受 託 会 社) | (2) | (0.014) | ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価 |
| (b) そ の 他 費 用 | 1 | 0.004 | (b) その他費用 = $\frac{\text{[期中のその他費用]}}{\text{[期中の平均受益権口数]}}$ |
| (監 査 費 用) | (1) | (0.004) | その他費用 ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| 合 計 | 76 | 0.539 | |
| 期中の平均基準価額は、13,970円です。 | | | |

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

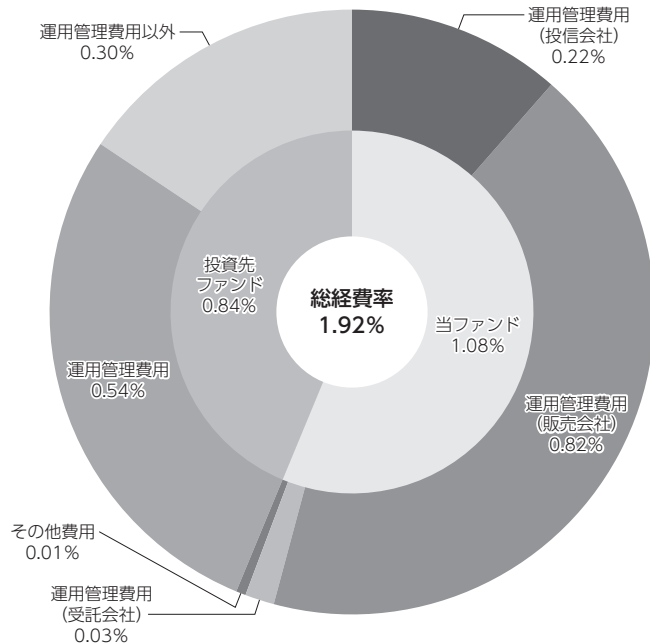
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.92%です。



(単位:%)

| | |
|----------------------|------|
| 総経費率(①+②+③) | 1.92 |
| ①当ファンドの費用の比率 | 1.08 |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | 0.54 |
| ③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率 | 0.30 |

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

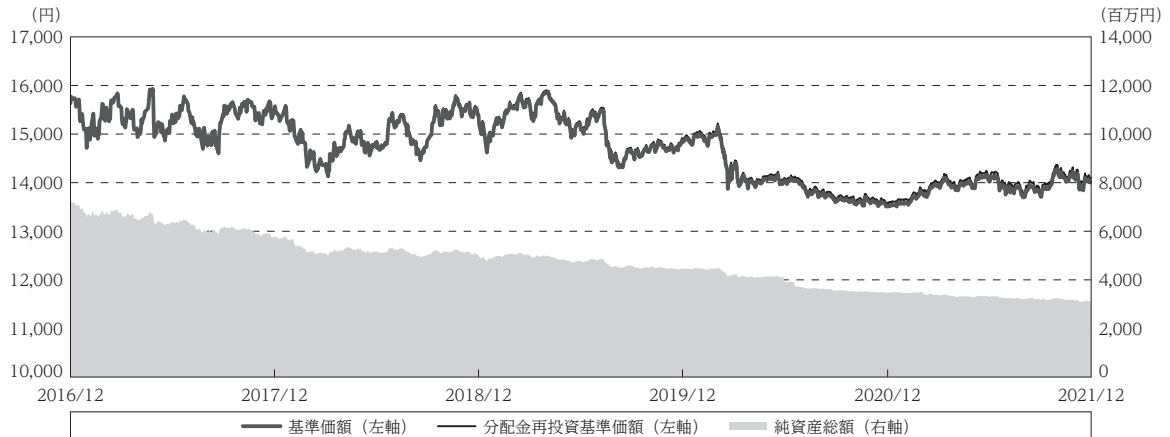
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2016年12月20日～2021年12月20日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2016年12月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

| | 2016年12月20日 決算日 | 2017年12月20日 決算日 | 2018年12月20日 決算日 | 2019年12月20日 決算日 | 2020年12月21日 決算日 | 2021年12月20日 決算日 |
|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 基準価額 (円) | 15,632 | 15,479 | 15,388 | 14,830 | 13,514 | 14,006 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | △ 0.9 | △ 0.5 | △ 3.5 | △ 8.7 | 3.8 |
| 純資産総額 (百万円) | 7,215 | 5,774 | 5,014 | 4,452 | 3,466 | 3,117 |

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」および「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

(2021年6月22日～2021年12月20日)

(債券市場)

当期の米国債券市場は、短中期債利回りが上昇（価格は下落）する一方、長期債利回りは若干低下（価格は上昇）しました。期の前半は、米連邦準備制度理事会（FRB）による緩和的な金融政策の長期化が意識されたことなどから、利回りは低下しました。その後も、FRBがテーパリング（量的緩和の縮小）を急ぐことはないとの見方が広がったことや、新型コロナウイルスで感染力の高いデルタ株の広がりが懸念され、投資家のリスク回避が意識されたことなどから、長期債を中心に利回りの低下が進みました。期の半ばは、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、経済活動の正常化が進むとの見方が広がったことなどから、利回りは上昇しました。米連邦公開市場委員会（FOMC）でテーパリングの年内開始と利上げ開始時期の前倒しが示唆されたことなども利回りの上昇に寄与しました。期の後半は、FOMCでテーパリングの開始が決定されましたが、FRB議長が早期の利上げに慎重な姿勢を示したことや、新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）が確認されたことなどから、利回りは低下しました。しかしその後、オミクロン株に対する過度な警戒感の後退や、FOMCが市場の予想通りながらもタカ派的姿勢を示したことなどから、利回りは下支えされました。

当期の欧州債券市場は、利回りが低下しました。期の前半は、欧州中央銀行（ECB）による金融緩和の長期化観測を背景に、利回りは低下しました。米国で緩和的な金融政策が長期化すると観測が広がり、米国国債利回りが低下したことも、ドイツの国債利回りの低下要因となりました。新型コロナウイルスのデルタ株の感染が拡大する中、欧州景気の先行き不透明感が意識されたことも、利回りの低下につながりました。期の半ばは、ECBがテーパリング開始を決定したことや原油価格の上昇によりインフレ加速への警戒感が高まったことから、利回りは上昇しました。しかしその後は、ECB総裁が早期の利上げ観測をけん制する発言を行ったことやオミクロン株が確認されたことなどから、利回りは低下しました。

新興国債券の利回りは、インフレ懸念などを背景に概ね上昇しました。

(外国為替市場)

当期の米ドル・円相場は、米ドル高・円安となりました。期の前半は、概ね一進一退の展開となりました。FRBによる早期のテーパリング開始に対する警戒感から米ドル買い・円売りが優勢となる場面が見られた一方、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大を受けて米国景気への影響が懸念されたことは、米ドルの上値を抑える要因となりました。

期の半ばは、米国国債利回りが上昇し、日米金利差が拡大したことから、米ドル買い・円売りが強まりました。その後、米国国債利回りの上昇が一服すると、米ドルは対円で伸び悩みとなりましたが、引き続き底堅い動きとなりました。期の後半は、オミクロン株の確認により、投資家のリスク回避姿勢から円買いが進む場面も見られましたが、過度な警戒感が和らいだことやFRBのタカ派的な金融政策などを背景に米ドルは下支えされました。

当期のユーロ・円相場は、ユーロ安・円高となりました。期の前半は、ECBによる金融緩和の長期化観測が強まったことや、欧州で新型コロナウイルスの感染が再拡大し、欧州経済への影響が懸念されたことなどから、ユーロは対円で下落しました。期の半ばは、方向感の定まらない展開となりました。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大による欧州景気の先行き不透明感が意識されたことなどは、ユーロ売り・円買いを促す要因となりました。一方、ECBがテーパリング開始を決定したことなどは、

ユーロ買い・円売り要因となりました。期の後半は、ドイツの国債利回りが上昇したことなどから、ユーロ買い・円売りが強まりました。しかしその後、ドイツの国債利回りの上昇が一服する中、オミクロン株の確認などによりユーロ売り・円買いが優勢となりました。

新興国通貨の動きは対円でまちまちとなりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2021年6月22日～2021年12月20日)

(テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、韓国、インドネシア、ノルウェー、ブラジル、スウェーデンなどへ投資しました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、韓国ウォン、米ドル、中国元を買い建てとする一方で、ユーロなどを売り建てしました。

<信用格付別配分>

主な配分については、投資適格債を中心に、非投資適格債も一部組み入れました。

(2021年11月末時点)

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2021年6月22日～2021年12月20日)

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2021年6月22日～2021年12月20日)

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

| 項目 | 第22期 |
|-----------|----------------------------|
| | 2021年6月22日～ 2021年12月20日 |
| 当期分配金 | 10 |
| (対基準価額比率) | 0.071% |
| 当期の収益 | 10 |
| 当期の収益以外 | — |
| 翌期繰越分配対象額 | 9,157 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース)

「テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」へ投資を行います。「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド：テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

○市場見通し (2021年11月末時点)

新型コロナウイルス・オミクロン株に伴うリスクについては注意が必要ですが、一部の国における新型コロナウイルスワクチンの接種率は高く、コロナとの共生を目指す方針への転換が始まっており、2021年から2022年にかけて世界経済の回復は続くと思料しています。現状、オミクロン株が与える影響やワクチンの有効性については不透明な状況です。オミクロン株の出現が、再び行動制限や経済への打撃につながるリスクはありますが、景気回復の流れは継続すると考えています。世界経済は、2021年前半にピークを付けた後、足元数か月において減速の兆候が見られますが、引き続き回復力があると考えています。

市場環境は、リスク資産へのシフトを進める状況にあると考えていますが、国ごとの経済状況や政策対応の違いを十分に精査して選別的にソブリン債に投資することが重要であると考えます。インフレ、

政策金利動向、新型コロナウイルスの状況に関連する固有のリスクを引き続き注視しています。

需給のミスマッチなどの要因により、2022年第1四半期にかけて多くの国でインフレ率は高止まりすると予想しています。米国では、ごく一部の業種が米国の物価に大きく影響を及ぼしています。運用チームでは、これらの要因の正常化に伴いインフレ率は低下すると予想しています。しかし、過度の金融緩和、巨額の財政支出がインフレリスクにつながる可能性があります。また、今後予想される家賃の上昇や労働市場のミスマッチが与える影響など、これら様々な要因が長期的なインフレ期待の上昇につながって行くのか否かについても注視が必要です。

○運用方針

全体として、ポートフォリオのデュレーションを短めに維持します。引き続き主要先進国以外で強固なファンダメンタルズを有し、魅力的なリスク調整後の利回りを有する国の現地通貨建てのソブリン債を選別的に保有しています。一部の新興国のソブリン債利回りは低利回りもしくはマイナス利回りの先進国ソブリン債の利回り水準を大きく上回っています。また、ビジネス活動が活発で、経常収支が黒字であり、健全な財政政策および高い経済成長が期待できる国（特にアジア諸国）の通貨にも注目しています。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

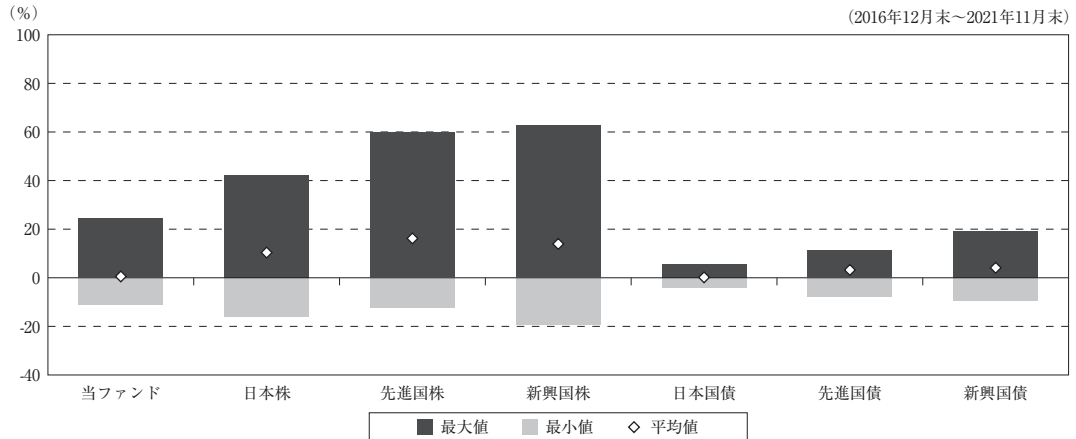
引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当ファンドの概要

| | | |
|--------|--|---|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／債券 | |
| 信託期間 | 無期限 | |
| 運用方針 | 投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。 | |
| 主要投資対象 | 当ファンド | ①フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券 |
| | フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY | 世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等 |
| | 日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定） | 日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じて、わが国の公社債、金融商品に投資 |
| 運用方法 | 主として、外国投資証券である「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。 | |
| 分配方針 | 毎決算時（毎年6月および12月の20日（休業日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託者が毎計算期末の基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 | |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | 24.5 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 5.4 | 11.4 | 19.3 |
| 最小値 | △ 11.3 | △ 16.0 | △ 12.4 | △ 19.4 | △ 4.0 | △ 7.9 | △ 9.4 |
| 平均値 | 0.5 | 10.4 | 16.2 | 13.9 | 0.2 | 3.2 | 4.1 |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年12月から2021年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(※) 各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

〈テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース〉

組入資産の内容

(2021年12月20日現在)

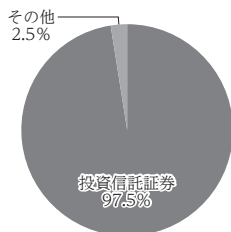
○組入上位ファンド

| 銘 | 柄 | 名 | 第22期末 |
|--|-------|---|-------|
| | | | % |
| フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY | | | 97.1 |
| 日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定) | | | 0.4 |
| | 組入銘柄数 | | 2銘柄 |

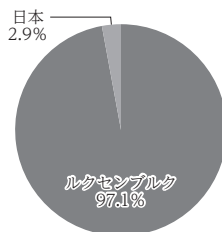
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

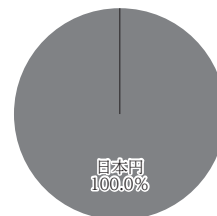
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

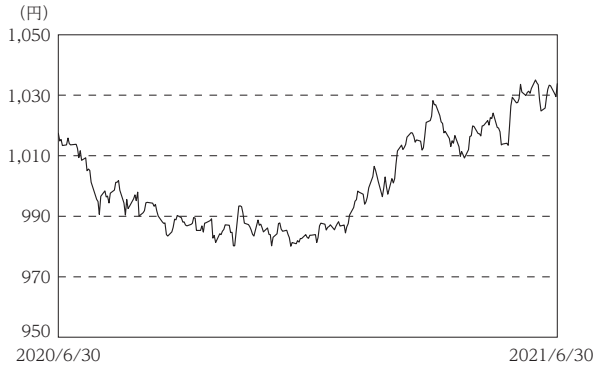
| 項目 | 第22期末 |
|------------|----------------|
| | 2021年12月20日 |
| 純資産総額 | 3,117,727,620円 |
| 受益権総口数 | 2,225,978,043口 |
| 1万口当たり基準価額 | 14,006円 |

(注) 期中における追加設定元本額は36,283,302円、同解約元本額は165,156,465円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ・テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド
(2020年7月1日～2021年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2020年7月1日～2021年6月30日)

| 項 目 | 比 率 |
|---------------------|-------|
| 運用報酬 | 0.55% |
| 管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等 | 0.30% |
| 合計 | 0.85% |

(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の数値です。
(注) 1 万円当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位 10 銘柄

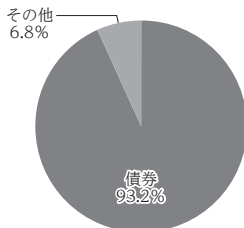
(2021年6月30日現在)

| 銘 柄 名 | 通 貨 | 比 率 |
|---|------------|-------|
| Korea Monetary Stabilization Bond 0.905% 04/02/2023 | 韓国ウォン | 6.58% |
| Mexican Bonos 6.5% 06/09/2022 | メキシコペソ | 5.94% |
| Japan Treasury Bill 0% 12/20/2021 | 円 | 5.01% |
| Sweden Treasury Bill, Reg. S, 144A 0% 09/15/2021 | スウェーデンクローナ | 4.89% |
| Norway Government Bond, Reg. S, 144A 2% 05/24/2023 | ノルウェークローネ | 4.72% |
| Korea Treasury Bond 0.875% 12/10/2023 | 韓国ウォン | 4.11% |
| Norway Government Bond, Reg. S, 144A 3% 03/14/2024 | ノルウェークローネ | 4.08% |
| Indonesia Government Bond 9.5% 07/15/2023 | インドネシアルピア | 2.86% |
| Korea Treasury Bond 1.25% 12/10/2022 | 韓国ウォン | 2.54% |
| US Treasury Bill 0% 08/03/2021 | 米ドル | 2.37% |
| 組入銘柄数 | | 84銘柄 |

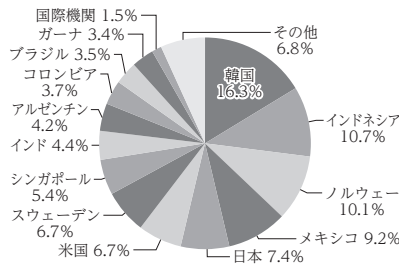
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

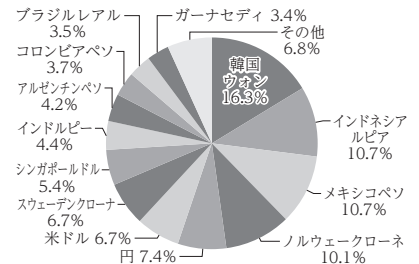
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

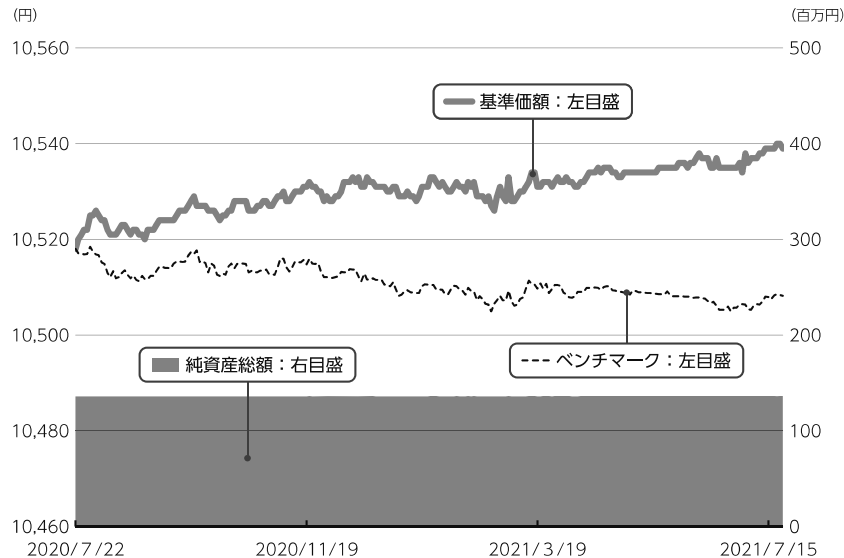


(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2021年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2020年7月23日～2021年7月26日）

基準価額等の推移



2020年7月23日～2021年7月26日

1万口当たりの費用明細

| 項目 | 当期 | | 項目の概要 |
|-----------|--------|---------|---|
| | 金額 (円) | 比率 (%) | |
| (a) 信託報酬 | 15 | 0.144 | (a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数) |
| （投信会社） | (12) | (0.111) | ファンドの選定・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目録見書等の作成等の対価 |
| （販売会社） | (1) | (0.011) | 交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 |
| （受託会社） | (2) | (0.022) | ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価 |
| (b) その他費用 | 0 | 0.003 | (b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数 |
| （監査費用） | (0) | (0.003) | ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用 |
| 合計 | 15 | 0.147 | |

期中の平均基準価額は、10,530円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

組入上位10銘柄

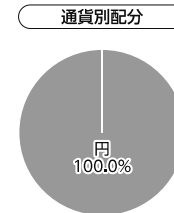
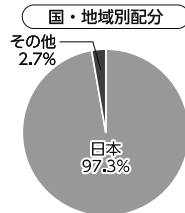
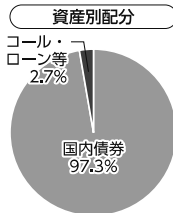
(組入銘柄数：17銘柄)

| | 銘柄 | 種類 | 国・地域 | 業種／種別 | 比率(%) |
|----|---------------------------|----|------|-------|-------|
| 1 | 第19回みずほ銀行(劣後特約付) | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 2 | 第14回セブン&アイ・ホールディングス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 3 | 第15回Zホールディングス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 4 | 第14回アサヒグループホールディングス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 5 | 第67回神戸製鋼所 | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 6 | 第75回アコム | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 7 | 第1回クレディ・アグリコル・エス・エー(2017) | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 8 | 第50回日本電気 | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 9 | 第5回イオンフィナンシャルサービス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 10 | 第1回明治安田生命2019基金 | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

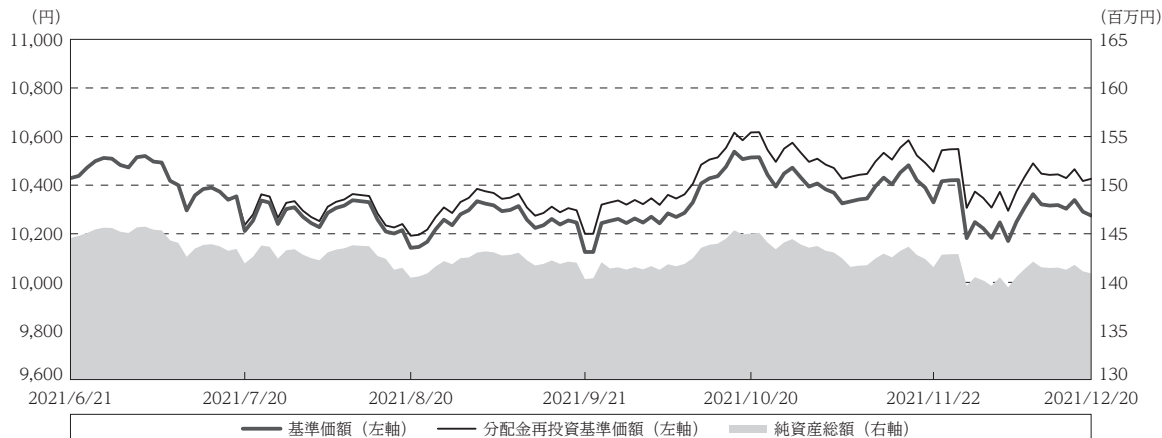
※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

<テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2021年6月22日～2021年12月20日)



第126期首：10,429円

第131期末：10,275円 (既払分配金(税込み)：150円)

騰落率：△ 0.0% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2021年6月21日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY」(以下、JPYクラスといいます。)の分配金再投資基準価額がほぼ横ばいで推移したことから、当ファンドの分配金再投資基準価額もほぼ横ばいで推移しました。詳しくは後掲の「■投資環境」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動

1 万口当たりの費用明細

(2021年6月22日～2021年12月20日)

| 項 目 | 第126期～第131期 | | 項 目 の 概 要 |
|-------------------------|-------------|------------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信 託 報 酬 | 55 円 | 0.535 % | (a) 信託報酬 = [作成期間の平均基準価額] × 信託報酬率 |
| (投 信 会 社) | (11) | (0.110) | ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価 |
| (販 売 会 社) | (42) | (0.411) | 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 |
| (受 託 会 社) | (1) | (0.014) | ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価 |
| (b) そ の 他 費 用 | 1 | 0.008 | (b) その他費用 = $\frac{[\text{作成期間のその他費用}]}{[\text{作成期間の平均受益権口数}]}$ |
| (監 査 費 用) | (1) | (0.008) | その他費用 ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| 合 計 | 56 | 0.543 | |
| 作成期間の平均基準価額は、10,330円です。 | | | |

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

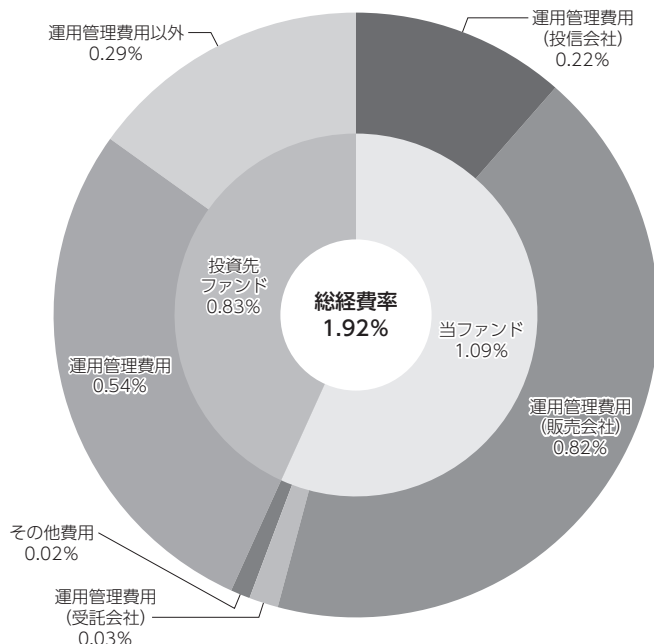
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.92%です。



(単位:%)

| | |
|----------------------|------|
| 総経費率(①+②+③) | 1.92 |
| ①当ファンドの費用の比率 | 1.09 |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | 0.54 |
| ③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率 | 0.29 |

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

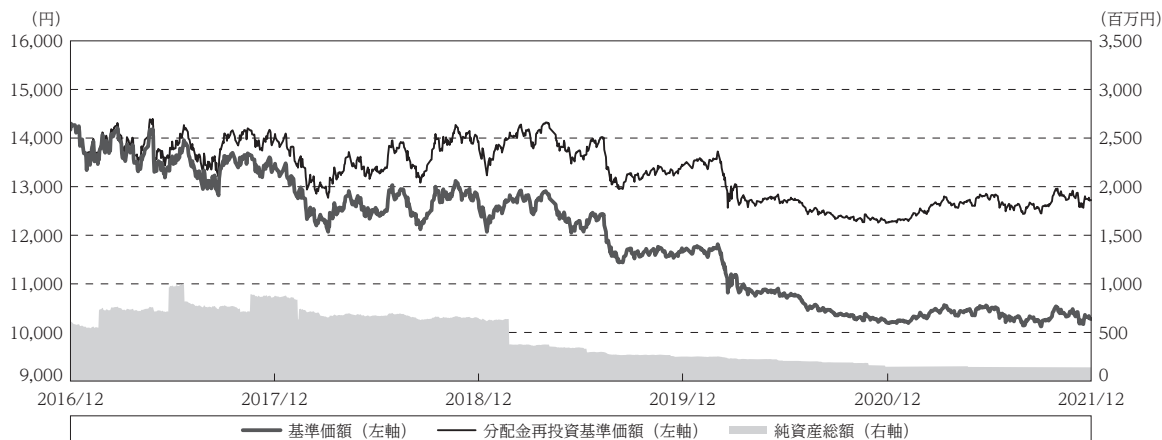
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2016年12月20日～2021年12月20日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2016年12月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

| | 2016年12月20日 決算日 | 2017年12月20日 決算日 | 2018年12月20日 決算日 | 2019年12月20日 決算日 | 2020年12月21日 決算日 | 2021年12月20日 決算日 |
|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 基準価額 (円) | 14,172 | 13,395 | 12,707 | 11,660 | 10,197 | 10,275 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 600 | 600 | 600 | 475 | 300 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | △ 1.2 | △ 0.5 | △ 3.6 | △ 8.7 | 3.7 |
| 純資産総額 (百万円) | 604 | 873 | 647 | 251 | 147 | 140 |

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。
ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

(2021年6月22日～2021年12月20日)

(債券市場)

当作成期の米国債券市場は、短中期債利回りが上昇（価格は下落）する一方、長期債利回りは若干低下（価格は上昇）しました。期の前半は、米連邦準備制度理事会（F R B）による緩和的な金融政策の長期化が意識されたことなどから、利回りは低下しました。その後も、F R Bがテーパリング（量的緩和の縮小）を急ぐことはないとの見方が広がったことや、新型コロナウイルスで感染力の高いデルタ株の広がりが懸念され、投資家のリスク回避が意識されたことなどから、長期債を中心に利回りの低下が進みました。期の半ばは、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、経済活動の正常化が進むとの見方が広がったことなどから、利回りは上昇しました。米連邦公開市場委員会（F O M C）でテーパリングの年内開始と利上げ開始時期の前倒しが示唆されたことなども利回りの上昇に寄与しました。期の後半は、F O M Cでテーパリングの開始が決定されましたが、F R B議長が早期の利上げに慎重な姿勢を示したことや、新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）が確認されたことなどから、利回りは低下しました。しかしその後、オミクロン株に対する過度な警戒感の後退や、F O M Cが市場の予想通りながらもタカ派的姿勢を示したことなどから、利回りは下支えされました。

当作成期の欧州債券市場は、利回りが低下しました。期の前半は、欧州中央銀行（E C B）による金融緩和の長期化観測を背景に、利回りは低下しました。米国で緩和的な金融政策が長期化するとの観測が広がり、米国国債利回りが低下したことも、ドイツの国債利回りの低下要因となりました。新型コロナウイルスのデルタ株の感染が拡大する中、欧州景気の先行き不透明感が意識されたことも、利回りの低下につながりました。期の半ばは、E C Bがテーパリング開始を決定したことや原油価格の上昇によりインフレ加速への警戒感が高まったことから、利回りは上昇しました。しかしその後は、E C B総裁が早期の利上げ観測をけん制する発言を行ったことやオミクロン株が確認されたことなどから、利回りは低下しました。

新興国債券の利回りは、インフレ懸念などを背景に概ね上昇しました。

(外国為替市場)

当作成期の米ドル・円相場は、米ドル高・円安となりました。期の前半は、概ね一進一退の展開となりました。F R Bによる早期のテーパリング開始に対する警戒感から米ドル買い・円売りが優勢となる場面が見られた一方、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大を受けて米国景気への影響が懸念されたことは、米ドルの上値を抑える要因となりました。

期の半ばは、米国国債利回りが上昇し、日米金利差が拡大したことから、米ドル買い・円売りが強まりました。その後、米国国債利回りの上昇が一服すると、米ドルは対円で伸び悩みとなりましたが、引き続き底堅い動きとなりました。期の後半は、オミクロン株の確認により、投資家のリスク回避姿勢から円買いが進む場面も見られましたが、過度な警戒感が和らいだことやF R Bのタカ派的な金融政策などを背景に米ドルは下支えされました。

当作成期のユーロ・円相場は、ユーロ安・円高となりました。期の前半は、E C Bによる金融緩和の長期化観測が強まったことや、欧州で新型コロナウイルスの感染が再拡大し、欧州経済への影響が懸念されたことなどから、ユーロは対円で下落しました。期の半ばは、方向感の定まらない展開となりました。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大による欧州景気の先行き不透明感が意識されたことなどは、ユーロ売り・円買いを促す要因となりました。一方、E C Bがテーパリング開始を決定したことなどは、

ユーロ買い・円売り要因となりました。期の後半は、ドイツの国債利回りが上昇したことなどから、ユーロ買い・円売りが強まりました。しかしその後、ドイツの国債利回りの上昇が一服する中、オミクロン株の確認などによりユーロ売り・円買いが優勢となりました。

新興国通貨の動きは対円でまちまちとなりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2021年6月22日～2021年12月20日)

(テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、韓国、インドネシア、ノルウェー、ブラジル、スウェーデンなどへ投資しました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、韓国ウォン、米ドル、中国元を買い建てとする一方で、ユーロなどを売り建てしました。

<信用格付別配分>

主な配分については、投資適格債を中心に、非投資適格債も一部組み入れました。

(2021年11月末時点)

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定))

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2021年6月22日～2021年12月20日)

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2021年6月22日～2021年12月20日)

当作成期の収益分配は次表の通りです。第126期から第131期について、いずれも配当等収益に加え、基準価額の水準、市況動向等を勘案して決定いたしました。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

| 項 目 | 第126期 | 第127期 | 第128期 | 第129期 | 第130期 | 第131期 |
|--------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 2021年6月22日～ 2021年7月20日 | 2021年7月21日～ 2021年8月20日 | 2021年8月21日～ 2021年9月21日 | 2021年9月22日～ 2021年10月20日 | 2021年10月21日～ 2021年11月22日 | 2021年11月23日～ 2021年12月20日 |
| 当期分配金 (対基準価額比率) | 25 0.244% | 25 0.246% | 25 0.246% | 25 0.237% | 25 0.241% | 25 0.243% |
| 当期の収益 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 |
| 当期の収益以外 | — | — | — | — | — | — |
| 翌期繰越分配対象額 | 6,811 | 6,816 | 6,823 | 6,836 | 6,841 | 6,848 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース)

「テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」へ投資を行います。「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド：テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

○市場見通し(2021年11月末時点)

新型コロナウイルス・オミクロン株に伴うリスクについては注意が必要ですが、一部の国における新型コロナウイルスワクチンの接種率は高く、コロナとの共生を目指す方針への転換が始まっており、2021年から2022年にかけて世界経済の回復は続くと思料しています。現状、オミクロン株が与える影響やワクチンの有効性については不透明な状況です。オミクロン株の出現が、再び行動制限や経済への打撃につながるリスクはありますが、景気回復の流れは継続すると考えています。世界経済は、2021年前半にピークを付けた後、足元数か月において減速の兆候が見られますが、引き続き回復力があると考えています。

市場環境は、リスク資産へのシフトを進める状況にあると考えていますが、国ごとの経済状況や政策対応の違いを十分に精査して選別的にソブリン債に投資することが重要であると考えます。インフレ、

政策金利動向、新型コロナウイルスの状況に関連する固有のリスクを引き続き注視しています。

需給のミスマッチなどの要因により、2022年第1四半期にかけて多くの国でインフレ率は高止まりすると予想しています。米国では、ごく一部の業種が米国の物価に大きく影響を及ぼしています。運用チームでは、これらの要因の正常化に伴いインフレ率は低下すると予想しています。しかし、過度の金融緩和、巨額の財政支出がインフレリスクにつながる可能性があります。また、今後予想される家賃の上昇や労働市場のミスマッチが与える影響など、これら様々な要因が長期的なインフレ期待の上昇につながって行くのか否かについても注視が必要です。

○運用方針

全体として、ポートフォリオのデュレーションを短めに維持します。引き続き主要先進国以外で強固なファンダメンタルズを有し、魅力的なリスク調整後の利回りを有する国の現地通貨建てのソブリン債を選別的に保有しています。一部の新興国のソブリン債利回りは低利回りもしくはマイナス利回りの先進国ソブリン債の利回り水準を大きく上回っています。また、ビジネス活動が活発で、経常収支が黒字であり、健全な財政政策および高い経済成長が期待できる国（特にアジア諸国）の通貨にも注目しています。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

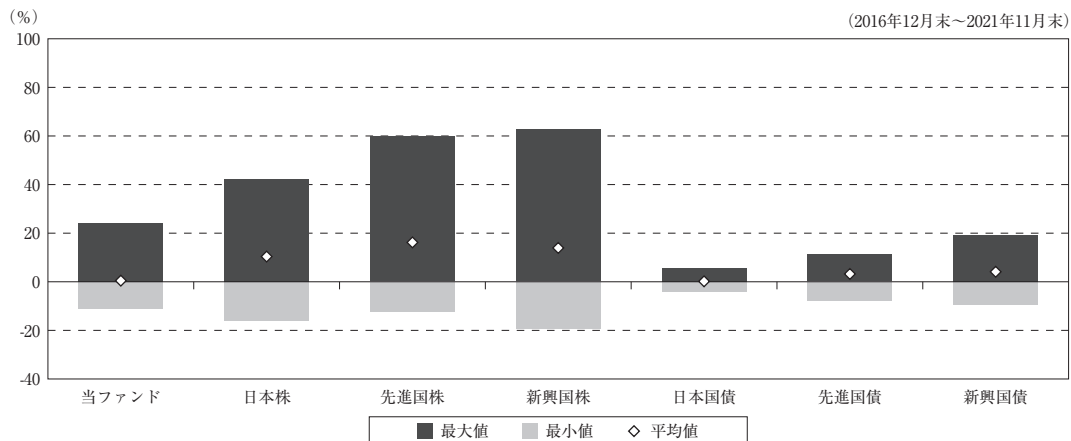
引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当ファンドの概要

| | | |
|--------|---|---|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／債券 | |
| 信託期間 | 無期限 | |
| 運用方針 | 投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。 | |
| 主要投資対象 | 当ファンド | ①フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券 |
| | フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY | 世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等 |
| | 日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定） | 日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じてわが国の公社債、金融商品に投資 |
| 運用方法 | 主として、外国投資証券である「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。 | |
| 分配方針 | 毎決算時（毎月20日（休業日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託者が毎計算期末の基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。なお、6月および12月以外の月の決算時の分配については、原則として配当等収益を中心とするものとします。また、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 | |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | 24.2 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 5.4 | 11.4 | 19.3 |
| 最小値 | △ 11.1 | △ 16.0 | △ 12.4 | △ 19.4 | △ 4.0 | △ 7.9 | △ 9.4 |
| 平均値 | 0.5 | 10.4 | 16.2 | 13.9 | 0.2 | 3.2 | 4.1 |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年12月から2021年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(※) 各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

<テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース>

組入資産の内容

(2021年12月20日現在)

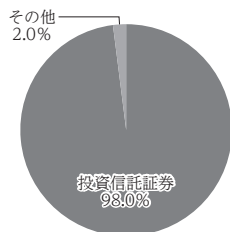
○組入上位ファンド

| 銘 | 柄 | 名 | 第131期末 |
|--|---|---|--------|
| | | | % |
| フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY | | | 97.4 |
| 日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定) | | | 0.6 |
| 組入銘柄数 | | | 2銘柄 |

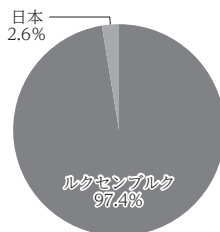
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

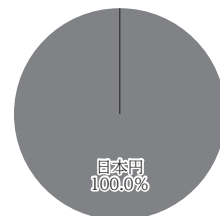
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

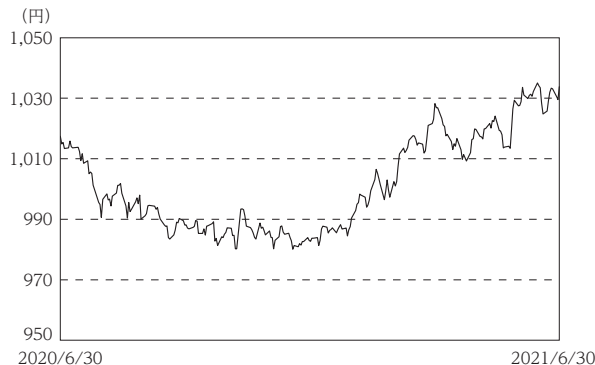
| 項目 | 第126期末 | 第127期末 | 第128期末 | 第129期末 | 第130期末 | 第131期末 |
|------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 2021年7月20日 | 2021年8月20日 | 2021年9月21日 | 2021年10月20日 | 2021年11月22日 | 2021年12月20日 |
| 純資産総額 | 141,947,050円 | 140,481,719円 | 140,336,439円 | 145,029,890円 | 141,573,664円 | 140,916,563円 |
| 受益権総口数 | 139,016,751口 | 138,514,318口 | 138,605,530口 | 137,938,331口 | 137,057,947口 | 137,151,177口 |
| 1万円当たり基準価額 | 10,211円 | 10,142円 | 10,125円 | 10,514円 | 10,329円 | 10,275円 |

(注) 当作成期間(第126期～第131期)中における追加設定元本額は1,935,400円、同解約元本額は3,410,158円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド
(2020年7月1日～2021年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2020年7月1日～2021年6月30日)

| 項 目 | 比 率 |
|---------------------|-------|
| 運用報酬 | 0.55% |
| 管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等 | 0.30% |
| 合計 | 0.85% |

(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の数値です。
(注) 1 万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位 10 銘柄

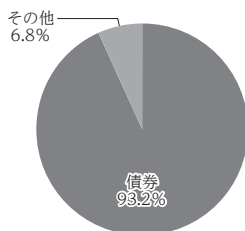
(2021年6月30日現在)

| 銘 柄 名 | 通 貨 | 比 率 |
|---|------------|-------|
| Korea Monetary Stabilization Bond 0.905% 04/02/2023 | 韓国ウォン | 6.58% |
| Mexican Bonos 6.5% 06/09/2022 | メキシコペソ | 5.94% |
| Japan Treasury Bill 0% 12/20/2021 | 円 | 5.01% |
| Sweden Treasury Bill, Reg. S, 144A 0% 09/15/2021 | スウェーデンクローナ | 4.89% |
| Norway Government Bond, Reg. S, 144A 2% 05/24/2023 | ノルウェークローネ | 4.72% |
| Korea Treasury Bond 0.875% 12/10/2023 | 韓国ウォン | 4.11% |
| Norway Government Bond, Reg. S, 144A 3% 03/14/2024 | ノルウェークローネ | 4.08% |
| Indonesia Government Bond 9.5% 07/15/2023 | インドネシアルピア | 2.86% |
| Korea Treasury Bond 1.25% 12/10/2022 | 韓国ウォン | 2.54% |
| US Treasury Bill 0% 08/03/2021 | 米ドル | 2.37% |
| 組入銘柄数 | | 84銘柄 |

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

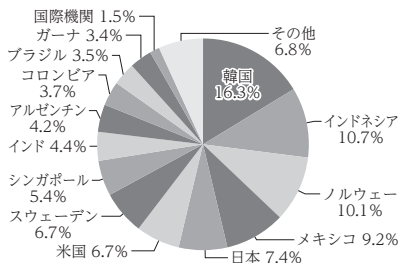
○資産別配分



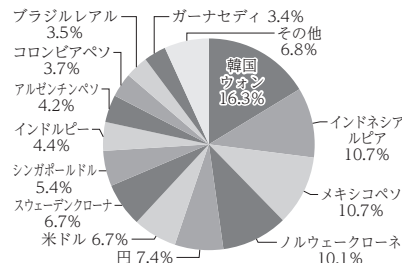
(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2021年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

○国別配分

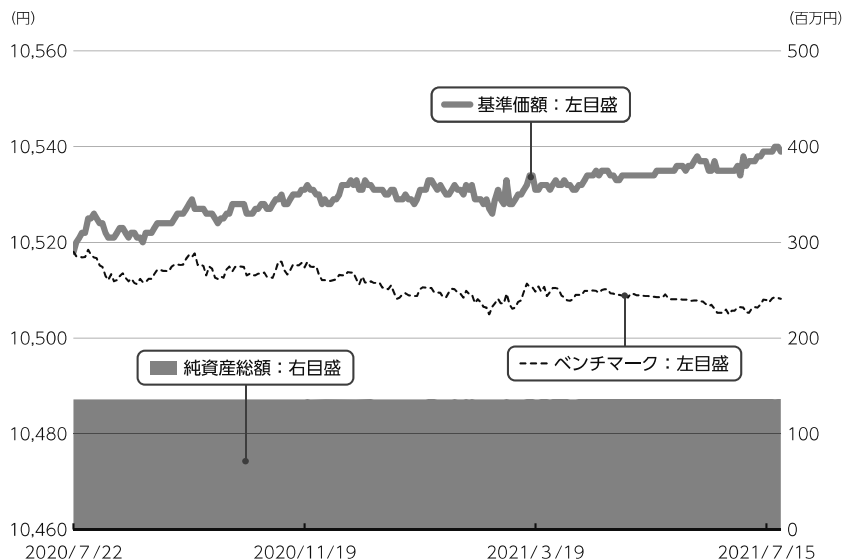


○通貨別配分



日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2020年7月23日～2021年7月26日）

基準価額等の推移



2020年7月23日～2021年7月26日

1万口当たりの費用明細

| 項目 | 当期 | | 項目の概要 |
|-----------|--------|---------|---|
| | 金額 (円) | 比率 (%) | |
| (a) 信託報酬 | 15 | 0.144 | (a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数) |
| （投信会社） | (12) | (0.111) | ファンドの選定・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目録見書等の作成等の対価 |
| （販売会社） | (1) | (0.011) | 交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 |
| （受託会社） | (2) | (0.022) | ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価 |
| (b) その他費用 | 0 | 0.003 | (b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数 |
| （監査費用） | (0) | (0.003) | ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用 |
| 合計 | 15 | 0.147 | |

期中の平均基準価額は、10,530円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

組入上位10銘柄

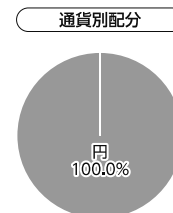
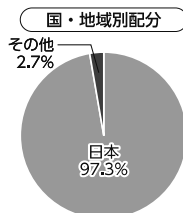
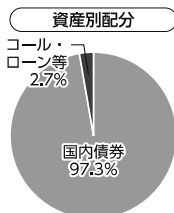
(組入銘柄数：17銘柄)

| | 銘柄 | 種類 | 国・地域 | 業種／種別 | 比率(%) |
|----|---------------------------|----|------|-------|-------|
| 1 | 第19回みずほ銀行(劣後特約付) | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 2 | 第14回セブン&アイ・ホールディングス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 3 | 第15回Zホールディングス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 4 | 第14回アサヒグループホールディングス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 5 | 第67回神戸製鋼所 | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 6 | 第75回アコム | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 7 | 第1回クレディ・アグリコル・エス・エー(2017) | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 8 | 第50回日本電気 | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 9 | 第5回イオンフィナンシャルサービス | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |
| 10 | 第1回明治安田生命2019基金 | 債券 | 日本 | 社債 | 5.9 |

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。



FRANKLIN TEMPLETON

フランクリン・テンプレトンは、創業以来
ベンジャミン・フランクリンの肖像画をロゴマークとしております。
創業者ルーパート・H・ジョンソン Sr. は、
“With money and financial planning, prudence comes first.”
(お金を増やそうとするときに一番大切なのは、用心深さである。)
というベンジャミン・フランクリンのビジネス哲学に深く感銘し、
アメリカ建国の父でもあり、偉大な科学者、
そして優れた投資家でもあった彼の名を社名に冠しました。
ベンジャミン・フランクリンの肖像画を用いたロゴマークは、
ご投資家の皆様にとって、
フランクリン・テンプレトンの資産運用サービスに対する
信頼と安心の象徴となっております。